



TOYAMA
Prefectural
University

富山県立大学ニュース

平成27年7月発行
富山県立大学学生委員会

NO.108

学生球技大会 (5月22日)



CONTENTS

- News Digest
- 学生レポート
- 研究紹介
- Campus News など



学生球技大会開催

5月22日(金)、グラウンドや体育館などの体育施設において学生会主催による「学生球技大会」が開催されました。当日は晴天のなか、ソフトボールやバドミントンなどの4種目がトーナメント戦及びリーグ戦で繰り広げられ、参加36チーム、約220名の学生及び教職員が、白熱した試合を通して交流を深め、意気を高めました。各種目の結果は次のとおりです。

競技種目	優勝チーム	準優勝チーム
ソフトボール	バラ@県	アベンジャーズ
3 on 3	ケンちゃんズ	エビバディ堀江
ビーチボール	絶対優勝！賞金稼ぎ!!	じゃみ～'S
バドミントン	緑茶	犬



富山県立大学入学者選抜に関する懇談会

5月27日(水)に県内高等学校の進路指導主事及び第3学年主任の教員のみなさんに参加いただき、「富山県立大学入学者選抜に関する懇談会」を開催し、45校51名の参加がありました。本学の概要や入学者選抜について説明したほか、希望者には本学の講義や研究室を見学していただきました。また、大学院機械システム工学専攻1年牧拓孝くんによる学生生活の紹介では、研究や課外活動の様子をいきいきと、また、堂々と発表する姿に、感心の声が多く寄せられました。

研究協力会総会

5月29日(金)に、パレブラン高志会館において平成27年度富山県立大学研究協力会総会(会長：(株)スギノマシン 代表取締役社長 杉野太加良)が開催されました。総会では、平成26年度事業報告及び収支決算、平成27年度事業計画及び収支予算等が審議、承認されました。総会後は、富山県航空機産業アドバイザー、元三菱航空機株式会社社長、株式会社スギノマシン取締役 戸田 信雄 氏より『航空機のモノづくり、コトづくり』と題してご講演をいただきました。交流会には、来賓として石井知事も出席し、本学の研究者紹介を交えながら会員・教員相互の交流を深めることができました。



ひまわり大作戦(種まき)

本学の環境教育および地域貢献事業の一環として、射水市と共同で取り組む「ひまわり大作戦」が、6月1日に本学1年次生全員による一斉種まきを皮切りにスタートしました。本プロジェクトでは、学生がひまわり栽培、バイオディーゼル燃料の精製を通して資源の大切さや環境問題への関心を高めること、また、市民に「ひまわり畑」を一般開放することにより地域社会に貢献することを目指しています。種まき当日は、学生総勢約240名が約50aの畑一面にひまわりの種を撒き、土に触れる経験があまりない学生も仲間と協力して楽しそうに取り組んでいる姿が多く見られました。また、防鳥テープを張り、鳥害対策も行いました。また、今年度は初の取組みとして近隣にある杉の子保育園の園児も参加し、学生と協力しながら楽しく種まきを行っていました。今後は、ひまわり畑に迷路をつくり、8月1日のダ・ヴィンチ祭で一般公開する予定です。

名誉教授称号授与

本学の発展に多大な貢献をされた前本学教授の岡田 敏美 氏に、開学記念日の6月1日付で名誉教授の称号が授与されました。岡田氏は、平成2年の開学と同時に工学部電子情報工学科助教授に就任され、地域連携センター所長等として本学の産学交流事業、研究協力会事業、生涯学習・地域交流事業に尽力されるなど、本学の地域貢献について極めて顕著なご功績を挙げられました。研究面では、電波及び無線通信を応用したシステムの研究で優れた成果を発表されたほか、様々な学外委員を歴任され、地域における技術の普及と産業の発展を支えられました。また、教育面では、優れた教授法で学生を指導し、多くの大学教員や企業人を輩出されました。



オープンキャンパス

6月20日(土)にオープンキャンパスを開催し、県内外から高校生229名、保護者38名、計267名の参加がありました。本学の概要や教育の特色等の説明、希望する学科の模擬講義、研究室の見学が行われ、本学学生も研究室での説明や参加者の引率など、様々な場面で頼もしい姿を見せてくれました。参加者からは、「ここで勉強してみたいという気持ちになった」、「普段は見ることのできないところを見られてよかった」、といった感想が多く寄せられました。

本学教員等の受賞について

教養教育 古澤 之裕 講師



①公益財団法人 富山県ひとづくり財団
第32回「とやま賞」
H27.5.26受賞

受賞研究「腸内細菌によるエピゲノム修飾を介した宿主免疫調節機構の解明」

<研究の概要等>

生体内で最大の免疫器官である腸管には、宿主にとって有益な常在菌が生息しています。腸管免疫系は腸内細菌の体内への侵入を防御する一方で、腸内細菌に対する過剰応答とそれに伴う炎症が起こらないよう制御されています。この抑制性の応答を調節しているのが、消化管の粘膜固有層に存在する制御性T細胞です。受賞者は、腸内細菌がヒストンやDNAの化学修飾（エピゲノム修飾）を介して腸管の制御性T細胞を誘導することを初めて発見し、共生菌による宿主免疫応答調節の分子機構を明らかにしました。

②国際放射線研究連合(International Association for Radiation Research)／第15回国際放射線研究会 (15th International Congress of Radiation Research)

“Excellent Poster Award” H27.5.28受賞

受賞論文「Comprehensive and Computational Analysis of Genes Responsive to X-irradiation in Human Umbilical Vein Endothelial Cells」

<研究の概要等>

心血管障害は、放射線被曝における主要なリスクファクターの1つであり、その発症要因として放射線による血管組織の炎症惹起があります。本研究では、血管内皮細胞株における放射線応答遺伝子を網羅的に解析し、バイオインフォマティクス的手法を用いて炎症関連分子の遺伝子ネットワークの同定を試みました。その結果、放射線照射により、自然免疫系の受容体を上流とした、炎症関連分子の転写調節経路が活性化すると予測されました。

機械システム工学 畠山 友行 講師



日本伝熱学会北陸信越支部研究奨励賞 H27.5.9受賞

受賞内容「研究活動の今後の発展が見込まれるため」

<研究の概要等>

本受賞は、富山県立大学赴任以来、日本伝熱学会北陸信越支部のメンバーとして研究活動を続けてきた功績が評価され、今後の研究活動のより一層の発展を奨励していただいたものであります。

知能デザイン工学 増田 寛之 講師



Best Paper Award H27.6.16受賞

受賞論文「Unknown Object Extraction for Robot Partner using Depth Sensor」

Hiroyuki Masuta, Shinichiro Makino, Hun-ok Lim,

Tatsuo Motoyoshi, Ken'ichi Koyanagi, Toru Oshima

<研究の概要等>

本研究では、ロボットが事前情報を一切持たない状態で、物体把持をするための未知物体検出手法について提案しています。3次元距離情報から、PSOを適用した簡略型面検出による安定した面の検出と、面同士の幾何関係に基づいた面の統合による物体検出手法を提案しました。検出時間と精度について、Point Cloud Libraryに搭載されている手法と比較し、高精度な物体の抽出と50倍以上の高速化を実現しました。

環境工学 畠 俊郎 准教授



地盤工学会北陸支部 奨励賞 H27.4.27受賞

受賞論文「尿素加水分解速度に基づく微生物固化技術の沿岸域への適応性評価」

<研究の概要等>

環境負荷の小さい新しい建設技術として着目されている微生物固化処理の適用範囲拡大を目標とし、沿岸環境において強度増進効果が期待できる微生物を用いた室内試験を行いました。

その結果、干潟由来の耐塩性に優れた微生物の一部について炭酸カルシウムの結晶析出促進に基づく強度増加を明らかにすることができました。今後は、地震に伴い発生が危惧される液状化対策としての有効性などについて明らかにしていきます。

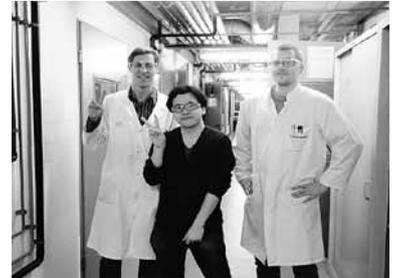
本学学生等の受賞について

受賞者	学科等	学会賞名	受賞年月	指導教員
Juan Tao	生物工学専攻博士後期課程3年	Best Poster Prize International Symposium on Wood and Science Technology 2015(IAWPS 2015)	2015年3月	教授 中島 範行 准教授 岸本 崇生
高平 梨可	生物工学専攻博士前期課程1年	日本ビタミン学会 第67回大会学生優秀発表賞	2015年6月	教授 榊 利之 准教授 生城 真一

ドイツ短期留学を経験して

富山県立大学大学院 工学研究科 (博士前期課程)
生物工学専攻 酵素化学工学講座 2年
大野 篤

私は平成27年1月末よりドイツのビーレフェルト大学化学部で1ヶ月間研究を行わせていただきました。私は現在、当研究室で開発された新規酵素、ブタ腎臓由来変異型D-アミノ酸化酵素の速度論的解析(評価)とその応用を研究しております。本酵素は医薬や農薬の中間体の製造に有用であり、ラセミ体アミンに本酵素と還元剤を作用させることで、片方の立体のみを得ることが出来ます。今回は効率の良い還元剤を探すことを目的に、研究を行って参りました。まず驚かされたのが大学の規模で、本学とのスケールの違いに圧倒されました。行ってみると1ヶ月は予想以上に短いものでしたが、研究室の先生や学生と実験の方針や結果についてディスカッションを何度も重ねた結果、期待した成果をあげることが出来ました。また、実験を通して有機化学的な視点の重要性を実感し、異分野の人の考え方に関してより興味を持つようになりました。現在も数ヶ月に一度Skypeで互いの研究について交流をしており、良い刺激になっています。最後に今回お世話になった(独)日本学生支援機構ならびに関係者の方々に心より感謝申し上げます。



ドイツの学生との写真

ビーレフェルト大学に留学して

富山県立大学大学院 工学研究科 (博士前期課程)
生物工学専攻 酵素化学工学講座 2年
大池 敬子

私は、2015年1月末からドイツのビーレフェルト大学に1ヶ月間留学させていただきました。私の研究テーマは、合成アルドキシムを基質とするアルドキシム脱水酵素反応の立体選択性の解明であり、その実験の一部をこの大学で行ってきました。

海外で生活するのは初めてで、不安なことばかりでしたが、日本では得ることができない貴重な経験ができました。他の研究室に行ったことはなく、ましてや外国の研究室は初めてだったため、苦労することもありましたが、研究室の皆が丁寧に教えてくれました。また、外国人との相互意思疎通には、いかに英語力が大事かを痛感しました。さらに、日本とドイツの文化の共通・相違点についてドイツ人と話すことで、日本の文化・歴史について再度勉強し直すこともできました。現在も数ヶ月に一度、ビデオ通話(Skype)にて留学先の教授や学生と研究報告をして貴重なアドバイスをいただいています。短期間でしたが、今回の経験は、専門知識と英語力の向上に勤しむ気持ちが強まっただけでなく、積極性と度胸とが付き、成長できたのではないかと思います。



Harald Gröger教授と研究室の方々に送別会を開いていただいた時の写真

最後に、今回の留学でお世話になった方々にこの場をお借りして厚くお礼申し上げます。

1ヶ月ドイツに短期留学して

富山県立大学大学院 工学研究科 (博士前期課程)
生物工学専攻 酵素化学工学講座 2年
森 利明

私は平成27年1月末よりドイツ、ビーレフェルト大学のHarald Gröger教授の研究室に留学させていただきました。私はアルドキシムラセマーゼの探索として研究を行っており、ドイツでは基質の合成および化学合成や酵素法による異性体の分離を目的に研究を行ってきました。海外での不慣れな環境、旅行計画の作成、日常生活、並びに大学の教員や学生との会話やメールを英語で交換することにより責任感や対応能力など、人間力の向上に繋がったと思います。短い期間の留学でしたが、多くの事を感じました。特に有機化学の考え方、日・独の大学での研究生活の違いなどについて深く考えるようになりました。ドイツで出会った方々や初めて訪れたビーレフェルトやベルリン、ケルン等の雰囲気は私の記憶に残っており、今でも思い出すことがあります。このドイツ留学経験は非常に有意義であり、私の大きな財産になりました。今後、世界で活躍でき、自ら発信していける人間になっていきたいです。

最後にドイツ留学するにあたってご指導して頂いた日独の関係者の皆様はこの場を借りて厚く御礼申し上げます。



ケルン大聖堂での写真

研究 紹介

固体粒子・液滴・気泡の挙動と流動

機械システム工学科

講師 杉岡 健一

雲や海でみられる白波、黄砂の飛散のような自然現象でも、噴霧や気泡塔などの工業装置に置いても、固体粒子や液滴・気泡が流れ(気流・水流)の中で運動するプロセスが多くあり、それらを解析するために数値シミュレーションが行われています。正確な数値シミュレーションを行うためには、その装置内で起こっている現象を正確に再現することができるモデル(数式や方程式)が必要です。いま、非常に高速な計算機(スーパーコンピュータ)が開発されていますが、計算機の性能が上がっても、不正確なモデルで解析された予測では、結局不正確な予測が早く出てくるだけです。そこで、我々の研究室では様々な流れや流れの中の固体粒子や液滴・気泡の挙動を正確に予測できるモデルの開発を目指して研究を行っています。

流れの中では、流れと粒子とに相対的な速度があるため、流体力(空力・水力)が発生します。その力により粒子が運動するため、流体力を正確に予測することが重要になります。流体力は、粒子の周りの流れがどのように変化するため、様々な流れで、なぜどのように力が働くかを明らかにし、それを正確に予測できるようにする必要があります。

図1に、回転していない球の後ろにできる流れの数値計算結果の可視化を示します。球の後ろにできる流れは上流の流れが変化しなくても、自然に変化します。そのため、球に働く力は変化し、力が一定に働かないため、球は振動します。野球でいうナックルボールはこのような原因で変化します。力学に基づく方程式に従って起こる現象なので、規則性があるはずなのですが、非常に小さな乱れをきっかけに始まるので、予測することがいまだできていません。しかし、上流の流れに大きな変動を与えると、球の後ろにできる流れは上流の流れに従ったものになります。

図2に、水滴の周りの流れと水滴の表面に働く上向きの圧力の大きさの数値計算結果を示します。数値計算では、実験では測ることができないこともわかります。この結果では、どこに強い力が働くのかを知ることができます。

今回示したような数値計算と実験を利用して、様々な流れや流れの中の固体粒子や液滴・気泡の挙動を正確に予測できるようにして、工業装置内や自然界での現象を正確に予測できるようにしていくことを目指しています。それらが可能になれば、より高効率な装置の設計や、災害の予測などに利用できるようになりますので、そのようなところまで応用できるように、今後も研究を続けていきたいと思っています。

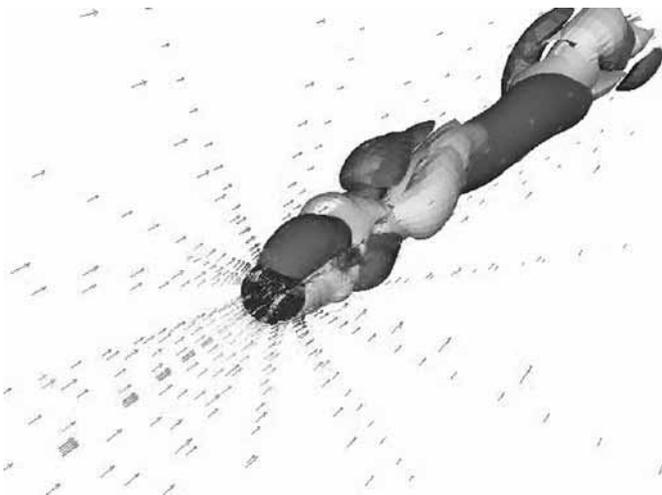


図1 球周りの流れの数値計算結果(暗：右回り；明：左回り)

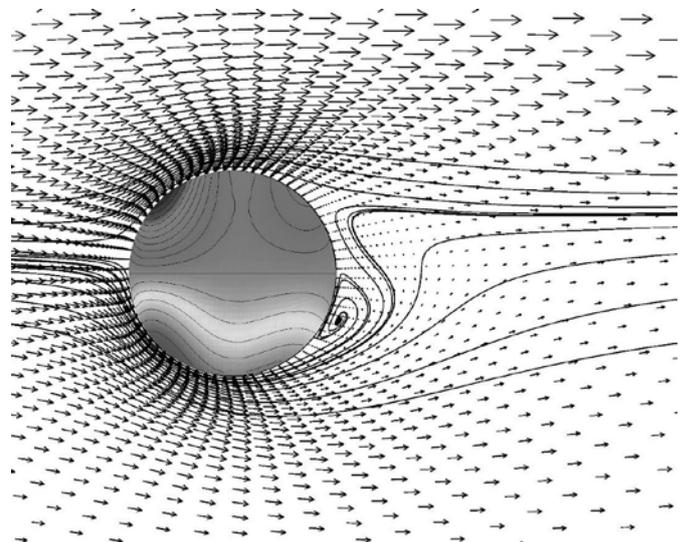


図2 水滴周りの流れと表面に働く上向きの圧力の数値計算結果

研究 紹介

斜面災害の軽減を目指して —地すべりの発生機構の解明—

環境工学科

講師 古谷 元



写真1 砺波市の山間部で発生した地すべり

毎年、ニュース等により国内外で山が崩れて災害になった話を聞きます。2011年に紀伊半島の豪雨災害で大きな地すべり（深層崩壊とも呼ばれています）が数多く発生し、河川を堰き止めて天然ダムを形成しました。富山では、昨年の12月7日に砺波市で県道を崩落させる地すべりが発生しています（写真1）。少し古い話になると、1858（安政5）年の飛越地震により立山連峰の鳶山が大崩壊し、崩壊土砂が常願寺川の上流を堰き止めた後に土石流となって富山平野へ流れ、大きな災害になりました。

地すべりとは、学術的には斜面を構成している物質が下方へ移動する現象を指します。国際的には、（小さな）斜面崩壊、地すべり、および土石流等をlandslide（直訳すると地すべり）として取り扱う場合が多いのですが、日本では、法令等によりこれらを別個に扱う場合がほとんどです。いずれにせよ地すべり等が発生すると、規模の大小問わずライフラインや建

物等に被害を与え、私たちの生活に大きな支障が出ます。日本ではこのような危険性がある箇所が5月31日現在で397,390箇所であり、莫大な数になります。

現在、私の研究室のテーマのひとつに地すべりの発生・移動機構の解明を進めています。ここでは、地すべり地で地中温度（地温）

を現地で測定し、地下水の流動経路を推定した例を紹介します。この経路を推定する理由は、もし地下水が集中して流動経路が拡大（水位が上昇）すれば斜面内の土砂を持ち上げる水圧が発生して斜面が崩れます。地すべりの危険性が高いと考えられる箇所で地下水の流動経路中の水を抜けば、水圧が下がることにより効果的かつ効率的に危険性を低減することが可能だからです。

図1はその測定原理です。一般的に日本では、深度12~15mより深い箇所では地表面からの熱

（日射）の影響を受けないことが知られています。このような場所に存在している地下水は、年間を通じて温度変化がほとんどありません（深井戸の井戸水が良い例です）。もしこのような地下水が浅部へ流入すると、流動経路周辺の地温は地下水によって乱されて夏季に低く、冬季に高くなります。なぜならば土や岩石

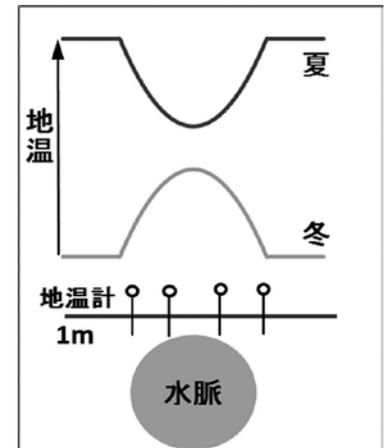


図1 温度計測の原理（地下水が流れていると地温が乱される）

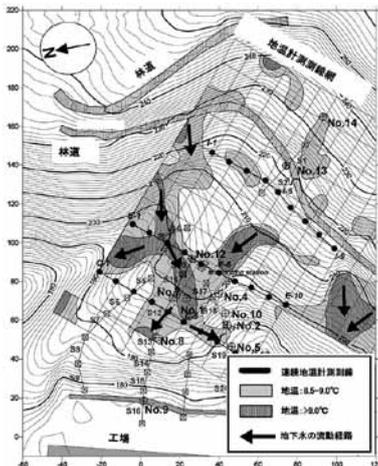


図2 ある地すべり地で推定された地下水の流動経路（冬季に計測したもので、平均の地温より高い値を示したところを抽出）

は水に比べて暖まりやすく冷めやすいからです。地温が乱された箇所を丹念に調べると地下水の流動経路を知ることができます。例えばある地すべり地で冬に計測した結果の一部を図2に示します。この図では、矢印で示した箇所が地下水の流動経路になります。

昨年、この地すべり地に流れる地下水の年代分析をしたところ、少雨時期や豪雨直後に関わらず9~10年前の降水が起源であることが分かりました。このことは、大雨（や融雪）で地下水の流動経路が拡大するのは事実ですが、降水が直ちに流動経路へ流入していないことを意味します。斜面で水抜きをすると地すべりを抑制することが可能ですが、地中内の環境を改変することになります。場合によっては、別の面で私たちの生活に不都合が生じるかもしれません。そのためにも今後も詳細な現象の解明を進めることが重要になります。

富山県立大学 第20回ダ・ヴィンチ祭2015を開催します！

ダ・ヴィンチ祭が20周年を迎える今年は、「かがやく好奇心がすべてののはじまり！」をキャッチコピーにかかげ、小さなお子様から高校生、保護者の皆様まで楽しんでいただけるイベントを目指しています。特に、北陸新幹線開業を記念した特別企画が見どころです。ぜひお越しください！

●日時・場所 8月1日(土) 10:00~16:00 (富山県立大学)

①北陸新幹線特別企画

「北陸新幹線開業記念 富山のものづくり大解剖」、「新幹線がやってきた街をつくる」など

②おもしろ科学縁日(屋外等での科学実験の実演) 9企画

「ひまわり迷路」、「特許を身近に感じよう」、「サイエンスカフェとやま」など

③大学探検隊(学内のさまざまな研究室を探検) 19企画

「ドローンを飛ばそう」、「いろんな変わったディスプレイ」、「マイクロチップのしくみを知ろう」など

④子ども科学製作教室 17企画(うち事前申込が必要なもの11企画)

「ペットボトル新幹線をつくって、走らそう!」、「実験で作ろう!アイスクリーム!」など

⑤その他 8企画

「体験してみよう!ベアリング(軸受)?トライボロジー?」、「ハイテクピタゴラスイッチ made in 高校生!」など

⑥小学生クイズ大会(10:00~、14:30~の2回開催)

●参加料 無料

●問合せ先 富山県立大学ダ・ヴィンチ祭実行委員会事務局
ホームページ <http://www.pu-toyama.ac.jp/davinci/>
TEL 0766-56-7500(内234) FAX 0766-56-6182
e-mail:davinci@pu-toyama.ac.jp

オープンキャンパス

県内外の高校生を対象に、本学への理解及び進学意欲を高めていただくことを目的に、下記のとおりオープンキャンパスを開催します。

●日時:8月1日(土) 9:10~ ●会場:富山県立大学

高校生向けコース

※カッコ内は生物工学科コースの日程

9:10~ 9:20(9:30~ 9:40) 開講挨拶、日程説明
9:30~ 9:40(9:40~10:00) 工学部紹介
9:40~10:10(10:00~10:10) 学科紹介
10:10~10:20(10:10~10:20) 入学者選抜の概要説明
10:35~11:00(10:20~10:45) 模擬講義
11:10~12:05 研究室等を見学
12:05~ 個別相談コーナー

教員・保護者向けコース

9:15~ 9:40 学内施設見学
9:45~ 9:55 開講挨拶、日程説明
9:55~10:35 工学部紹介、
学生支援・キャリア教育等紹介
10:35~10:45 入学者選抜の概要説明
11:10~12:05 研究室等を見学
12:05~ 個別相談コーナー

●問合せ先:事務局教務課学生募集係 〒939-0398 射水市黒河5180
TEL:0766-56-7500(内228) FAX:0766-56-6182

保護者向けキャリア支援(就職・進学)セミナー

本学では、就職活動を控える学生の保護者の皆様を対象に、最新の就職状況や就職活動のポイント、学生への家庭での具体的な支援方法等をご紹介するため、次のとおり、キャリア支援(就職・進学)セミナーを開催します。学生本人の同伴も可能です。多数のご参加をお待ちしております。

名古屋会場 ●開催日:平成27年8月29日(土) 14:00~15:40
●会場:桑山ビル 大会議室8A(愛知県名古屋市市中村区名駅2丁目45番19号)
名古屋駅より徒歩3分の会場になります。

富山会場 ●開催日:平成27年8月30日(日) 14:00~15:40
●会場:本学 大講義室

※詳細は下記までお問い合わせください。

富山県立大学事務局教務課教務学生係 〒939-0398 射水市黒河5180
TEL:0766-56-7500(内線227) FAX:0766-56-6182



今を知り 明日を良くする 国勢調査

国勢調査は10月1日現在、日本国内にふだん住んでいるすべての人を、ふだん住んでいるところで調査します。このため、日本に住んでいる外国人も、国籍に関係なく、調査の対象となります。



SCHEDULE 平成27年度

		大 学 院	工 学 部
1 (土)ダ・ヴィンチ祭 若手エンジニアステップアップセミナー 26(水)～11/ 4 (水)機械系コース 29(土)、30(日)保護者向けキャリア支援(就職・進学)セミナー 29(火)～ 9 /15(火)中国・瀋陽化工大学へ交換留学生の派遣	8月	3(月)～11(火)授業又は前期試験 18(火)、19(水)工学研究科入学者選抜	1(土)オープンキャンパス 24(月)～ 9 /11(金)集中講義
	若手エンジニアステップアップセミナー 2 (水)～10/14(水)生物工学系コース 2 (水)～10/28(水)電子情報系コース	9月	
若手エンジニアステップアップセミナー 7 (水)～11/18(水)環境工学系コース 10月中旬～11月下旬 北陸三県大学学生交歓芸術祭 22日(水)環境講演会 31(土)～11/ 1 (日)大学祭	10月	1(水)後期授業開始	
7(土)、14(土)、21(土)秋季公開講座	11月	5(木)進路ガイダンス 19(木)進路ガイダンス	20(金)推薦入試

CAMPUS NOTE

剣道部



剣道部は、今年度から正式に部として活動を始めた新参サークルです。

現在の活動場所は体育館で週に2回、水、金曜日に練習をしています。活動時間は16時30分から18時過ぎまでです。普段の活動では生徒だけではなく顧問の先生に参加してもらい稽古をつけて頂いたりもしています。課外活動としては、年に1度の県大会に個人や団体として出場したり、富山大学剣道部の合同稽古に参加したりしています。

部員は男女合わせて13人います。小学生から剣道が続いている人や中学あるいは高校でやっていたという人など、みなが経験者です。剣道はつらく厳しいものですが、たまにやりたくなるのではないのでしょうか(笑)。また、大学の剣道といえればかなり厳しいイメージがあると思いますが、私たちは主に体を動かすことを目的として、無理なく続けられるスタイルをとっています。経験者はもちろんのこと、剣道について興味がある方や少しハードな運動をしたい方はぜひ一度足を運んでみてはいかがでしょうか。

(部長 知能デザイン工学科4年 浅野秀光)

編集後記

今年も5月の連休を利用して、精度40度と名高い安納芋の苗を実家の畑に植えた。今年は例年と違って、草刈り機で実家の周りの草刈りから始めた。空き家になった実家の周りの雑草は伸び放題である。草刈りだけで丸1日を要した。里山の自然を維持するのは並大抵ではないことを実感する。その後、小型の耕運機で耕して畝を作った。そして、安納芋25株とカボチャ2株を植えた。常日頃、体を動かしていなかったせいか、連休明けの翌朝、何げなく体をくの字に曲げてくねった拍子に、なんと、ぎっくり腰を起してしまった。このぎっくり腰なるもの、ほとんどの人は一生に一度は経験するものらしい。また、立って歩く人間に特有のものでもあるらしい。靴下を履くのも、そして歩くのもままならない。20年程前に、一度、その辛さは経験したが、それ以来のことである。回復には1週間程はかかったとあきらめ、静かにそしておそろおそろ振る舞った。予想通り、1週間後には回復した。それ以来、毎朝、行動開始前に、まずはラジオ体操第一をすることになっている。最近、毎週末に実家に出かけて草刈り機を用いて雑草との戦いである。

総務省統計局の平成25年度の調査では、全国に空き家が820万戸もあり、年々増加しているという。多くの若者が職を求めて便利な都市部に移住し、生活するのに不便な地域社会に定着しなくなった。そして、地域の高齢化が進み、いなかの里山に住むのは老人が多くを占めるようになり、里山も荒れ放題の始末である。ようやく、最近、政府も地域創生と銘打って本腰を入れ始めた。本学にはサークル活動として水土里(みどり)保全研究会があり、「農村環境の保全活動や、農業体験・応援などを通じて、コミュニケーション能力の向上を図り、地域振興に貢献する」活動を積極的に行っている。実に頼もしい限りである。

北陸新幹線が開業して100日が過ぎた。乗降客としての利用人数は従来の約3.2倍になるなど好調であり、大きく人の流れが変わった。そうした中で、若者の地域定着を図るには、地域、そして地域産業の魅力を若者に大いにアピールしていくことが必要であろう。北陸、特に富山には世界や国内市場でトップクラスのシェアを誇るモノづくり企業が密集している。本学では次年度以降、学科拡充や新学科の創設を予定しており、地域や産業を担う人材の育成により一層力を入れていく。また、本学は平成25年度から文部科学省の地(知)の拠点整備事業(COC事業)に採択され、地域そして知の拠点として地域協働授業を実施するなど、地域の様々な課題に大学を挙げて取り組んでいる。(学生部長 中村 清美)



この用紙は資源保護のため、インキは植物油インキを使用しています。

再生紙を使用しています。